

県P連だより

No.29

第57回日本PTA全国研究大会「みやぎ大会」報告

県P連副会長 榎 大介

(呉市 警固屋中学校)

8月21日(金)午後2時、広島県PTA連合会を代表して県内全域から70名を超える参加者が広島空港に集結し、PTA全国大会みやぎ大会に向けて出発しました。

今回の大会参加者は、平成23年に開催される、第59回日本PTA全国研究大会ひろしま大会を企画運営するという大きな責任を伴った、主催者という認識と、今からみんなで、全国大会ひろしま大会を創り上げ、盛り上げていくという意気揚々とした意識をもって参加させて戴きました。

特に全国大会の実行委員に選出された方は、実行委員会の委員としての責任感から具体的な運営に至ることにまで踏み込んで、参加する前から準備をされて高い意識で臨まれていたように思います。

日本PTA全国研究大会は第1回を三重県の宇治山田市で昭和28年に開催され中国地区では第7回を山口県の宇部市で昭和34年に開催、第35回を広島県の広島市で昭和62年に開催、近いところで最近では、中国地区では第51回を鳥取県で平成15年に開催されており、現会員の中では全国大会の運営に携わった人は誰一人としていません。

はるか昔にさかのぼらなければ関係者はおりません。

全くあたらしいスタートです。

どうすれば、何をすれば意義ある、ひろしま大会を果たす



ことができるのか成功させることができるのか、そんな思いの中で、みんな必死で全国大会ひろしま大会を成功に導くために、今回のみやぎ大会で多くのことを学び吸収していこうという気概の満ち溢れた2泊3日の行程でした。

既に、広島県PTA連合会の竹本会長、全国大会ひろしま大会実行委員長の山本委員長、県P連の原田事務局長は我々よりも早くみやぎ入りし、みやぎ大会の運営に関する情報提供を受け、また、来年開催される、千葉大会の関係者とも情報交換するなど平成23年度に向けて勢力的に動いておられました。

大会期間中、いたるところあらゆる場面で宮城の関係者の方々、来年の千葉大会の関係者と日Pの方々の、意見交換、情報交換、名刺交換という場面が頻繁におこなわれ、ひろしま大会の幕が切つて落とされたことを実感させられた大会でした。

このたびの、開催地となった宮城県は、松緑輝く260余島が浮かぶ日本三景「松島」を有する、緑豊かな豊穡の地であり陸奥仙台藩62万石・初代藩主伊達政宗公や稀代の天才漫画家・石ノ森章太郎先生また「PTAの歌」の作詞をされた春日紅路氏を生んだ地です。

【大会スローガン】

向き合おう！まっすぐに！

語り合おう！子どもの未来のために

の下に

8月21日(金)

9の分科会と2つの特別分科会

8月22日(土)

全体会が開催されました。

分科会会場で運営責任者の方とお話しさせていただく中で、運営に際して心が

けたことは、力合わせた魅力、宮城らしさ、おもてなしの心、だったそうです。

全国から来ていただくみなさんに何ができるか、それは宮城の良さ、宮城らしさを心をこめて、みんなで力合わせておもてなしをすることだという結論に至ったそうです。

全国大会を行うにあたって議論を重ね思案苦慮された宮城のみなさんの思いを感じさせられました。広島でもその思いは学ばせて戴きたいと思いました。

心の中、思いの中の指針、心がけるものは大事だと感じさせられました。全体会では、東北大学教授で医学博士の川島隆太氏による記念講演「脳科学からみた早寝・早起き・朝ごはんの大切さ」をテーマとして有意義な講演がなされ、それに引き続き大会宣言がなされ以下の内容が決議されました。

- 一 自ら学び実践するPTA活動を行います。
- 一 家庭・学校・地域社会が協働し、子どもを育むPTA活動を行います。
- 一 子どもの安全・安心な教育環境を整えるPTA活動を行います。
- 一 食の大切さを考え基本的な生活習慣を実践するPTA活動を行います。
- 一 環境を大切にし、人を愛する心豊かな子どもを育むPTA活動を行います。
- 一 子ども一人ひとりの自己実現を支援するPTA活動を行います。

おわりに

「PTAの歌」作詞された春日紅路氏(宮城県出身)の「PTAの歌」作詞にあたっての思いを紹介させて頂き私の報告とさせて頂きます。有難うございました。

た。
素直な子ども、心も身体も健康な子ども、辛抱強くそして常に何かを考えている子ども。ほくは新しい日本の子どもの姿をそのように夢みている。そしてまた、学校と結びつく理想的な家庭をほくは次のようにも考えている。
節度のある教養と愛情で常に家庭を明るくしている父であり母でなければならぬ。子どもたちと一緒に考える親達、そうした家庭の子どもたちはきっと素直で健康で、明朗であるに違いない。しかしながら現実には年から年中けんかばかりしている家庭があるということはな

んとしても淋しいことだ。そうした暗いじめめた家庭の中に成長する子どもを考えると恐ろしいような感じがしてならない。
教育は学校だけがするもの、とか或いは受け持ちの先生が全責任をもつべきものであるかと、いったような誤ったあなただけの古い考えは捨てよう。そして可愛い子どものためならばどんなに苦勞しても自己の責任において立派な人間に育て上げようとする意欲と強い決心を持つよう。
家庭が暗かったら、決して立派に子どもは成長しないのだ。ひとりひとりが高い知性と深い愛情をもたない限

り、いくら学校の制度を変えてみたり、PTAの組織をいじくりまわしてみたりとところでどうにもならないのだ。
人間性豊かな教師と理解ある親達、これらが堅く美しく直結するときはじめて希望も花咲き、新しい日本の教育も確立するのではないだろうか、人間教育というものに深い関心と、不思議なほどの郷愁を感じているほくはそうしたことを考え、夢みながらこの歌を作った。
(登米小学校会報 昭和26年12月31日発行より)

第57回日本PTA全国研究大会「みやぎ大会」分科会

第1分科会 組織運営
県P連理事 岩崎 雅吉(竹原市 竹原中学校)



仙台空港から北へ約60キロ。新幹線で二駅くりこま高原駅に到着。ここからシャトルバスにて本日の目的地登米祝祭劇場に到着。ここでは組織運営がテーマです。研究課題PTAとは何だろう 難だろう 軟だろう?と題して、勉強しました。まず基調講演として東北楽天ゴールデンイーグルスアドバイザーで

仙台大学副学長の マーティンキナーナート氏 によりまず野球の話を中心に日本のスポーツ界をより良くしたいという思い、チームワークの真の意味を語ってくださいました。PTAにもおおいに参考になるお話しでした。実践発表では、組織再編の必要性、事務局の固定化等、様々な事例に即座に対応出来るよう、柔軟性を持った組織運営が必要な発表があり、いろいろな意見が飛びかうパネルディスカッションと続きました。やはり一番心に残ったのは、各単Pより3名ずつ約百名のスタッフがあたたく笑顔で迎えてくれた事、2年後の私達もそんな気持ちで皆さんを出迎えたいなと感じました。アトラクションの迫鹿踊り、丸山太鼓も親子での共演はとても感動しました。最後にPTA活動は柔軟な考えを持って楽しく、素晴らしいものにしていきたいですね。

第2分科会 家庭教育
県P連会計 黒木 伸二(世羅郡 東小学校)

仙台駅からJR仙石線で1時間半、途中、芭蕉の奥の細道でありにも有名で「宮島」「天橋立」と並び日本三景の一つである名勝「松島」を車窓に眺めつつ、第2分科会開催地の石巻市に向かいました。

石巻駅から一步出た途端、分科会スタッフの方々のさわやかな笑顔に迎えられ、会場に着くと更に多くの宮城県PTA同士からあたたかい歓迎を受けました。

家庭教育が研究領域である第2分科会は「家庭の果たす役割と「早寝・早起き・朝ごはん」がテーマです。家庭教育カウンセラの内田玲子先生による基調講演「すべての教育の原点は、家庭教育にある」を感慨深く拝聴させていただき、日常の生活、家庭における私たち親と子の関わり大切さをあらためて再認識させられ



ました。御年七十三歳とは思えないパワフルな内田先生は、その講演の中でしばしば「子どもはさまざまサインを出している。サインは分かれ道。そのサインに気づく事と、どう受け止めてあげるかがとても大切」と、分かりやすい例を示しながら繰り返し話されました。そして「気づいた時からでも間に合うので、その瞬間から全てをプラスに受け止めて進んで欲しい」と頼もしく力強いお話を聞かせていただきました。

昼食を挟んで、平成17年度からいち早く食育推進活動に着手して来られた宮城県PTA連合会の実践発表があり、さらにその後のパネルディスカッションでは、子どもが生活のリズムを自分で作るようになるためにも、躰はもちろん、早寝・早起き・朝ごはんといった毎日の基本的な生活習慣がいかに重要かという事、子どもの成長過程における家庭教育の役割とその大切さを強く感じました。まさに「教育の原点は家庭にあり」を実感した分科会でした。

第3分科会

学校教育

県P連理事

橋濱

智美(三原市)

第三中学校



第3分科会では、「子どもたちが確かな「生きる力」を育むためのPTA活動」を研究課題とし、さとう宗幸氏による講演「ふれあいの時を求めて」で始まりました。人と人とのふれあい、母親の力・愛情をいろいろなエピソードを

添えた講演に、会場は感動に溢れました。

午後の実践発表・パネルディスカッションでは「みやぎらしい協働教育推進事業」が紹介され、家庭・学校・地域・行政が子どもたちの健全育成を目的とし、各々の特性や能力を活かしながら互いに尊重し、対等な立場で協力して学校教育を創りあげる事業(起業教育・コラボスクール)について発表されました。

お昼には、地域の高校の起業家研究グループによる、地産地消弁当「栗原ふれあい弁当」をいただき、栗原市ぐるみでの取り組みに感動しました。

スタッフの丁寧な対応や運営マニュアルの内容の濃さは、とても参考になりました。来年度の千葉大会の実行委員の方にもお会いでき、今回参加した三原分科会実行委員も充実した一日を過ごすことができました。

第4分科会

情報活動

三次市P連会長

藤井

正志(三次市)

君田小学校

私が参加した第4分科会では、「情報社会に対応し、より効果的な広報活動」をテーマに基調講演、実践発表、活動報告が行われました。

基調講演は、

元警視庁警察官

少年犯罪予防委員

会代表 幸島

美智子さんが

「こどもたちの

未来、共にかん

がえてみません



か」という演題で、「少年非行の現状から見えるもの・家庭に求められること・PTA、地域でできること・携帯電話の問題点と対応・子どもたちの未来のために」の5項目に分けてご自身の経験をふまえた激に、また分かりやすく講演されました。

実践発表では、第29回日本PTA広報誌コンクール小学校の部文部科学大臣賞受賞の亘理町立亘理小学校PTA 小野明子さんと、第30回日本PTA広報誌コンクール中学校の部文部科学大臣賞受賞の登米市立南方中学校元PTA副会長 門脇美貴さんが「日本一の広報誌づくりを目指して」を演題としてそれぞれ発表されました。組織のスリム化や役員の意識改革により、学校と家庭と地域が連携を深め、お互いに信頼関係を育み、子どもを真ん中にすえ、様々な情報や課題を共有しあうことを大切にして、広報づくりに取り組まれているそうです。

活動報告では、子どもとメディアに関する意識調査の結果をもとに、テレビ・有害図書・ゲーム・携帯電話の危険性、保護者と子どもの意識の違いなどの報告をされました。

PTA活動は家庭と学校だけでなく地域とも連携を深め、自分たちは何ができるか、また、何をすべきかを考えながら楽しく活動できる環境を整えていくことで、充実したすばらしいものが出来ると感じながら、会場をあとにしました。

第5分科会

地域連携

県P連理事

加藤

千政(尾道市)

長江小学校

「みなさん、おはようございますー」と、声も高らかに始まったのが第5分科会でした。基調講演の講師は全国の不登校、引きこもりの子ども達を自らのお寺に同居させて元気にしている「わんぱく和尚」こと廣中邦充さんです。

数多くの問題を抱える子ども達(本当に問題をかかえているのは大人だそうです)に接する中で学んだ事例を、成功例だけでなく失敗例も交えられてお

第57回日本PTA全国研究大会「みやぎ大会」分科会



話し頂きました。多くの共感と感銘、そして笑いの中にも深く考えさせられた基調講演でした。

午後からのパネルディスカッションでは廣中さん自らパネラーを務められ、子ども達を元気にする鍵は学校のみならず、地域、家庭の協力があつてこそ成し遂げられるという方向に話が向かいました。

講演とは別に印象的だったことは、地元の特産品を扱うブースに中学生が手作りのイチゴジャムを販売していて、飛ぶように売れていたことです。学校と地域が一体となるお手本のような姿に感服しました。

第6分科会 人権教育

県P連理事 八木 明美(甘日市 甘日市中学校)

東北学院大学法学部准教授である三條秀夫先生の講演会では、前半に「人権」が語られ続けてきた歴史やその時代背景を話されました。その守るべき「人権」の重要性に改めて気付きました。「人権」を軽

視され、無視したり、人を非難したり、中には相手が逃れられないほどいじめで死に追いやってしまうという実例も話されました。

また、「選択の自由」というのは、その人がどう行動するかは行動選択であり、それは自分の意志を他人に押しつけたり、批判してはならない！ということです。だからといって、「自由」にしているのではなく、勝手気ままにして他人に迷惑をかけてはいけません。あたり前のことですが、いじめや無視、しかとをするという態度は最も許されることではなく、これは「人権侵害」なんですよ、と話され、私も同感です。

「あいさつ」はその人を認めること、あなたを見ている、安心して下さい、という意志の表現だそうです。

あいさつ運動は、人とのつながりを深く感じるコミュニケーションとして、「PTAの王道」を深く広めたいと思います。



第8分科会 健康安全・食育

県P連理事 西宮 晴之(府中市 上下北小学校)

仙台市内から車で北上すること約九十キロ、風光明媚な三陸海岸に位置する南三陸町(ホテル観洋)において第8分科会は「生活の基本である食の原点を考え、食を通して健全な子どもたちを育もう！」を研究課題に全国から約六百名のPTA会員の参加のもと開催されました。

基調講演は京都大学フィールド科学教育センター社会連携教授の畠山重篤氏による『森は海の恋人』牡蠣が教えてくれること』と題したものでした。

気仙沼で産業のカキの養殖を営み、水産資源を安全に食するためには、その海にそそぐ川が森林の養分を運んでくれることが汽水域の生態系にとってなくてはならないことを重要視し「森は海の恋人」運動を展開。美味しく安全な水産物を食べるには自然を汚さないという、子



どもの頃からの教育が不可欠であると、山に植林をし、子どもたちを海に招き、食育も含めた環境教育を続けておられる事などお話しいただきました。

実践発表は、気仙沼市が推進する「スローフード運動」活動の一環で、市内の小学校で料理研究家やシェフを招き自分たちの身近にある食材から地域の産業や自然を知ることにより、生産者の思いや願いも知ることができ、子どもたちが自分達の食生活を見つめなおし、食育に大きな成果を挙げている事例が発表され、大変参考になりました。

ただ食べればよい、栄養を取ればよいのではなく今一度「食」の重要性を学び直すことが必要と感じさせられた一日でした。

特別第1分科会

日本PTA担当
県P連副会長 山本 和臣(甘日市市 津田小学校)

私が子どもの頃から、テレビなどから発信されるメディアとPTAとの関係は、どちらかと言うと対立した関係として報じられることが多かったと思います。



解する」事こそが、「リテラシー」への第一歩だと感じました。

分科会の構成は3部で構成されており、1部は恵泉女学園教授の大日向雅美氏による基調講演、2部は民放連の三好晴海氏による報告、そして第3部が上智大学教授の音好宏氏がコーディネーターを務めるパネルディスカッションであり、それぞれの内容に大変感銘を受けました。

特にこのパネルディスカッションには日P前会長の曾我邦彦氏がPTA側のパネリストとして発言し、討論もあり、大変有意義なものだったと思います。最終的には前述したように「理解」と「リテラシー」を強く認識することになりましたが、ただ一つ残念だったのが、コーディネーターの姿勢に、メディア発信側のスタンスを取り、PTAに対して批判的な発言が見えたことは、パネルディスカッションの本来の目的を歪曲する可能性があるのでは？と思わせた事です。

皮肉なものです。が、情報を発信する側に何らかの「意図」がある場合、これを見抜く力が我々に必要なのだと感じさせられたのも事実です。

何はともあれ、いろいろと考えるきっかけを与えていただいた多賀城市PTAのスタッフの方々に感謝です。本当にお疲れ様でした。

特別第2分科会

文部科学省担当
県P連副会長 羽原 啓二(福山市 城東中学校)

特別第2分科会は、仙台市の南東に隣接し仙台国際空港の所在都市の名取市文化会館で、「地域と学校をつなぐPTAの役割」を研究テーマとして開催されました。

開会式では、文部科学省生涯学習政策局の坂東久美子局長が、平成16年度から「放課後子ども教室推進事業」また、平成20年度から「学校支援地域本部事業」を実施するなど、学校、家庭、地域の連携強化をより一層推進し、その取組みの全国的な普及・

定着を図っているとの挨拶がありました。

基調講演は、キッコーマン株式会社取締役茂木賢三郎氏が「日本の未来を担う人づくり」という演題で、個人主義でなく社会に貢献しながら自立して生きてゆく人材育成の必要性について話されました。

シンポジウムは「学校と地域との連携とPTAの役割」という題で行われました。コーディネーターとパネリストとの話を聞きながら「学校支援地域本部事業」実施には、行政が強力に推進していく必要がある事。開かれた学校、校長先生を始めとした学校の受け入れ態勢の重要性。学校と地域の間で調整役になるコーディネーターの重要性を感じました。現在実施されている地域におけるコーディネーターの多くは、教育関係者とPTAのOB・OGとの報告もありました。

名取市の分科会実行委員の皆さんには、平成23年度日Pひろしま大会開催に向けて、準備・運営について貴重なアドバイスと資料と励ましの言葉を頂き、次期開催地千葉県市の分科会実行委員の皆さんとは、情報提供のお願いと来年の再会を約束して分科会会場をあとにしました。



鐘

子育ては本当に難しいものである。算数のように答えがズバリ出るものでもなければ、いつの時点でもってゴール

といえるのか。

地域で子ども会のお世話をさせてもらっている。毎年夏に小学生を連れて一泊二日の研修に行く。四年前、この研修で前代未聞の事故が起こった。幸い大事に至らず事なきを得たが、その時の子どもの態度、保護者の対応に、時代も変わったものだ、人様の子どもを預かることも難しい時代になったものだと考えさせられた。

あれから三年後、中学生になった彼が、地域の子ども会のリーダーであるジュニアリーダーを志願して子ども会に帰ってきた。今、ジュニアリーダーとして小学生の前に立つ堂々とした彼の姿に、私たち役員初め、その時にご迷惑をおかけした施設の職員の皆さん一同、目を見張らせたものだ。

彼の姿を見て、また、彼のご両親の姿を見てつくづく考えさせられる。確かに小学生の頃は心許なく心配な姿であったが、しっかりと彼の中には生活していく力が育っている。

子どもが自立するのに、必要な親の姿とは、何だか考え込んでしまったこの夏であった。

(石)

公聴広報委員紹介

花満 美和(東広島市)
黒木 伸二(世羅郡)
八木 明美(廿日市市)
宮下 成二(江田島市)
斉藤めぐみ(山県郡)
沖田 朱美(三原市)
安原 正典(福山市)
近藤 千晶(三次市)

編集後記

今の時期は季節の移り変わりだけではなく、時代の大きな変転の時期だろうと思います。これから、どういう時代になっていくのか予測もつきません。たとえ半年前であっても、日本の情勢がこんなに変わると誰が想像したでしょうか？

これからのどうなるかわからない時代に突入しているように思います。そうした中、「大事なことは何か」と考えます。たとえ何かが起ころうとも、いちばん大事なことは「私たちの心が元気でいきいきと楽しんで生きる、その心の安定感が大切なのではないのでしょうか？」

学歴とか財力、社会的肩書では安定感を得られないと実感するようにになりました。そういう状況の中でも、根底において「自分らしく生きる」と願うことが、これからの時代の生き方だと思ふのです。

実り多い人生を過ごしていきたいです。

県P連母親代表 花満 美和

充実の補償で お子様を サポートします

●誤って他人のものを壊したり、他人にケガをさせてしまったら…
(加害事故の補償)

インターンシップ(職場体験)やアルバイトに起因する賠償責任も対象となります。

●授業中やクラブ活動など、校内外を問わず発生するケガや病気*の補償

*病気入院補償はWプランのみ対象です。



団体割引適用で
割安な保険料！

(注)動産総合保険(携行品一式特約付帯)には、団体割引による割引は適用しません。
スクールメディカルデスク24でお子様の健康相談を24時間受付

●学校管理下中の学用品・身の回り品などの補償
●育英費用等

充実の補償でお子様をサポートします。

広島県PTA連合会 小・中学生総合保障制度



小・中学生総合保障制度はこども総合保険・動産総合保険(携行品一式特約付帯・学校管理下中のみ担保)のペットネームです。この広告は「広島県PTA連合会小・中学生総合保障制度」の概要について紹介したものです。保険の内容は平成20年度のパンフレットをご覧ください。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読み下さい。

詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡ししてあります保険約款によりますが、ご不明な点がありましたら取扱代理店・引受保険会社までお問合せください。

平成20年9月作成 募文No 4140-08-032



引受幹事保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

お問い合わせ先・取扱代理店：(株)東海日動パートナーズ広島 TEL：0120-018-217



ニッセイ同和損害保険株式会社



三井住友海上火災保険株式会社